

かめのり大学院留学アジア奨学生
 月次報告レポート
 (2020年9月)

1. 研究について

9月論文の第5章を書いていたが、会話が2場面あるので、章ごとに1つの場面の会話のみを扱うと、もう1つの場面の会話と比較しづらく、読み手にとって分かりにくいと思った。そのため、論文の構成をもう一度考え直し、これから指導教員に相談するつもりだ。

前回のレポートでは、日本語の〈交渉部〉における交渉の内容(場面1)について紹介した。今回はクメール語の〈交渉部〉における交渉の内容(場面1)について少し紹介する。

本調査のデータにより、クメール語の会話では、〈交渉部〉が現れない会話が3組¹、〈交渉部〉が現れた会話が7組あった。〈交渉部〉が現れない会話は、日本語の会話と同様に、《勧誘部》において、勧誘者が被勧誘者の都合を尋ね、被勧誘者が【都合が合うという応答】で都合が良いという返事をするすると勧誘者が勧誘を行い、被勧誘者がすぐに承諾を行うという会話である。〈交渉部〉が現れた会話の中では、〈交渉部〉において「都合の交渉」のみを行った会話がなかった。全体の具体的な内訳としては、「都合の交渉」と「勧誘内容に関する交渉」を行った会話が1組、「都合の交渉」と「勧誘内容に関する交渉」と「実行手続きに関する交渉」を行なった会話が1組、「勧誘内容に関する交渉」と「実行手続きに関する交渉」を行なった会話が1組、「勧誘内容に関する交渉」のみを行った会話が2組あった。クメール語の勧誘会話における〈交渉部〉の交渉項目の詳細は以下の表1のようにまとめられる。

表1 クメール語の勧誘会話の〈交渉部〉の交渉項目

データ名	〈交渉部〉における相談項目		
	「都合の交渉」	「勧誘内容に関する交渉」	「実行手続きに関する交渉」
KNSM1	〈交渉部〉がない		
KNSM2	都合	行き先、食べ物、同行者	×
KNSM3	×	食べ物、行き先	×
KNSM4	〈交渉部〉がない		
KNSM5	×	行き先	誰が食事代を払うか
KNSW1	都合	同行者、食べ物、行き先	待ち合わせ
KNSW2	×	予算、食べ物、行き先、時間	×
KNSW3	〈交渉部〉がない		
KNSW4	×	食べ物、行き先	待ち合わせ

¹ クメール語の場面1の勧誘を承諾する会話は全部10組ある。

KNSW5	×	食べ物、同行者	待ち合わせ
-------	---	---------	-------

表2に示すように、クメール語の会話において<交渉部>が現れた会話で見られた交渉項目は、日本語の会話で見られた都合、食べ物、行き先、予算の交渉内容に加えて、同行者についての話も見られた。また、日本語の会話では見られなかった誰が食事代を払うか、待ち合わせ場所や時間などの実行手続きについても交渉を行っていた。

日本語の会話では、都合について交渉する会話が最も多かったが、クメール語の会話では、<交渉部>が現れた7組の会話の中で、都合について交渉する会話が2組のみあった。また、日本語の会話では、<交渉部>で3つ以上のことについて話す会話がなかったが、クメール語では3つ以上の交渉項目について話し合う会話が多かった。つまり、クメール語の勧誘会話では、承諾を行う前に<交渉部>でやり取りをする事柄が多いといえる。

上記の結果により、クメール語の勧誘会話では以下のような特徴がまとめられる。

- (1) クメール語の会話では、勧誘されたたらずすぐに承諾しない。承諾を行う前に<交渉部>で、たくさんの事柄について交渉する。
- (2) 都合よりも勧誘内容や実行手続きに関する交渉の方をよく行なっている。
- (3) まだ承諾しないうちでも、「実行手続きに関する交渉」を行っても構わない。
- (4) 「勧誘内容に関する交渉」、「都合の交渉」、「実行手続きに関する交渉」をともに行う会話がある。つまり、クメール語の会話では、承諾を行う前に<交渉部>で、被勧誘者が気になることについて1つずつ話題を取り上げて、情報を要求し、提供された情報が気に入れば、それを受け入れて次の話題を進める。そして提供された情報が気に入らなければ、そこでお互いに交渉して意見を調節する。

2. 生活について

先月夏の研修交流会と授与式で、オンラインでも皆様の顔が見られてとても嬉しかった。その後、カンボジアのプチュンバン（お盆）があった。プチュンバンには、みんなで料理を作ってお寺に行く。6年ぶりにプチュンバンの時期にカンボジアにいたが、新型コロナウイルスでお寺に行くことを自粛した。しかし、人が少ないと予想してシムリアップに車で行った。そこで、弓矢と陶芸を体験した。陶芸はカンボジアの伝統芸能だが、日本に行く前はあまり興味がなかった。しかし、日本にいる間に、時々日本の陶芸に関する番組を見て、カンボジアの陶芸にも興味を持つようになり、いつか一回やってみたいと思った。そして今回の体験で、陶芸の難しさを実感できた。海外に住んでみると、その国の文化だけでなく、母国の文化にも興味を持つようになり、考えたことのない母国のことについても色々考えたりする機会を持つことができた。

